

第3学年 社会科（公民的分野）学習指導案

日時 平成18年11月9日（木）6校時
場所 遠野市立青笹中学校 3年教室
生徒数 25名
授業者 堀村 克利

1 単元名 第3章 わたしたちの暮らしと経済 第1節 暮らしを支える経済

2 単元について

(1) 生徒の実態

社会科の意識アンケートによれば、学級の約8割の生徒が社会科の教科を好きであると答えており、3分野の中では、公民的分野が好きな生徒が一番多かった。社会科の学習に対しては前向きに取り組み、発言を積極的に行ったり、興味をもって学習を行ったりする生徒も多い。

しかし、興味をもって学習に取り組むものの、学習課題を解決する際に、適切な資料を選択し調べたり、調べたことや考えたことを自分の言葉で適切に表現したりすることが苦手な生徒も多い。そこで、「書く活動」を通して論理的な思考力を身につけさせ、授業の中で自分の考えを整理し、しっかりと述べられるような力をつけたいと考える。

本単元で取り扱う内容については、日常生活に密接に結びついているので、生徒は興味をもって学習することができるものとなっている。また、経済の仕組みを知ることにより、毎日の生活の仕方を考え工夫したり、限りある資源を有効に使ったりと、「生きる力」につながるものと考えられる。しかし、用語など難しい内容も多いため、わかりやすい資料等を活用しながら、基礎的・基本的事項を身につけられるような工夫をしていきたいと考える。

(2) 教材観

本単元は、経済活動の意義について消費生活を中心に理解させるとともに、価格の働きについて着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、現代の生産のしくみのあらましや金融の働きを理解させるとともに、企業の役割と社会的責任について考えさせる。

具体的には、身近な消費活動を中心とした経済活動の意義、消費活動と支払い手段、様々な消費者問題、市場のしくみと価格の働きなどの市場経済の基本的な考え方、現代の生産と流通のあらまし、金融の働き、企業の役割と社会的責任、日本経済の変化、食料と環境の問題などの学習を行う。

本単元の学習内容の中心である経済活動についての学習に関連した事項は、小学校3・4年生で「地域の人々の生産や販売」「県のように」、小学校5年生で「日本の農業・水産業」「日本の工業生産」「日本の通信などの産業」を学んでいる。また、中学校の地理的分野においても、「世界と日本の産業・資源」「広がる地域間の結びつき」において、日本の産業を中心として経済的な側面や、それにとともなう諸課題について学んでいる。しかし、関連事項は学習しているものの、生産活動や消費活動に関連した具体的な経済活動の内容については、日常生活の中で興味関心をもつことはあっても、しくみや因果関係を具体的に理解できてはいない。

テレビ等のニュースや新聞において、日本の経済に関する諸問題については、毎日報道されている。これからの時代を生きる生徒にとって、経済活動のしくみや諸問題について学ぶことは、大変意義あることである。だからこそ、本単元で学ぶ内容は、公民として必要な基礎的教養を培ったり、社会の諸問題に着目し、自ら考えようとする態度を育てたりする上で大切なものである。

(3) 指導観

本単元では、消費生活を中心とした経済活動の意義や市場経済のしくみを、具体的な事項をもとにして学んでいく。その中で、身近な事象をとりあげ、課題意識を喚起させる導入を工夫すること、生徒の日常生活との関連づけを図る学習を展開すること。重要語句の定着については、板書や学習シートを活用しながら語句の意味や語句と語句の関連性についての理解を図っていくこととする。

書く活動については、ノートや学習シートを活用しながら、課題解決に迫る資料について自分の考えをまとめていくという活動を取り入れたい。特に、「わかり合う書く」の活動において、自分の考えをまとめ発表し合い、互いの考えを交流する場面をもちたいと考える。

意欲については、いろいろな生徒の考えを取り上げたり、机間指導で個々の生徒への支援を行うことによって発言を促したりしながら、意欲の向上を図りたいと考える。

3 単元の目標・評価規準

身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解するとともに、価格の働きに着目して、市場経済の基本的な考え方について理解する。

現代の生産構造や金融の働きについて理解するとともに、社会における企業の役割と社会的責任について考える。

- 個人や企業の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、経済活動について考えようとする。(興味・関心・態度)
- 社会における企業の役割と社会的責任、社会生活における職業の意義と役割および雇用と労働条件の改善について、多面的・多角的に考察し、個人や企業の経済活動のあり方について、さまざまな立場から公正に判断できる。(思考・判断)
- 個人と企業の経済活動に関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりすることができる。(技能・表現)
- 経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、生産のしくみのあらまし、金融の働きについて理解し、その知識を身につけることができる。(知識・理解)

4 単元の指導・評価計画

小3・4年 「見直そうわたしたちの暮らし」「調べよう物をつくる仕事」「わたしたちの県のまちづくり」

小5年 「食料生産を支える人々」「工業生産を支える人々」「暮らしを支える情報」「住みよいくらしと環境」

時間	学習の目標	学習内容	評価規準<評価方法>
1	商品の種類や流れについて考え、毎日の暮らしと経済活動のかかわりを理解する。	日常の生活を振り返り、商品には「財」と「サービス」があることを理解し、毎日の生活と経済活動のかかわりをとらえる。	<p>関心・意欲・態度</p> <p>経済の働きについて身近な生活と結びつけて考え、経済学習に対する関心を高めることができる。<シート・発言></p> <p>知識・理解</p> <p>財とサービスの違いを理解し、財やサービスの供給と、私たちが行う消費活動とがスムーズにつながるしくみを、経済の三主体を中心に理解することができる。<ノート・発言></p>
1	家計のお金の流れと支払いの手段について考え、所得と支出・貯蓄について理解する。	家計について、所得の種類と消費支出・貯蓄について理解し、クレジットカード等の支払い手段と家庭の経済活動のしくみをとらえる。	<p>思考・判断</p> <p>具体的な場面での消費活動のシミュレーションをすることで、実生活におけるさまざまな条件の中で、的確な選択を行うことができる。</p> <p><シート・発言></p> <p>知識・理解</p> <p>実際の家計を通して、私たちが商品を購入する際、必然的に選択の原理が働いていることを理解する。<発言・ノート></p>
1	消費者をめぐる問題をどのように防げばよいかを考え、これからの生活に必要なことをまとめる。	テレビ・新聞の報道から、消費者をめぐる問題と、製造物責任法やクーリングオフの制度等の対策を理解し、賢い消費者になるための方策を考える。	<p>関心・意欲・態度</p> <p>生活に密着した事象としての消費者をめぐるさまざまな問題に関心をもち、消費者としての立場から意欲的に学習に取り組もうとする。</p> <p><発言></p> <p>思考・判断</p> <p>消費者の権利や消費者保護の諸法律が必要とされる背景について考えるとともに、自立した消費者とはどのような存在かを考察することができる。<ノート></p>
1	商品の価格はどのように決まるのかを考え、市場経済の仕組みを理解する。	野菜など身近な商品から、需要と供給と価格の関係について考え、市場経済のしくみについて理解する。	<p>思考・判断</p> <p>市場の働きの中で、価格がどのように決まるのか、そのメカニズムについて考えることができる。<シート・発言></p> <p>技能・表現</p> <p>市場経済のもとでは、商品の価格は需要と供給の関係によって決まることを、資料から読み取ることができる。<シート・発言></p>

1	市場では決まらない商品の価格を考え、独占や公共料金について理解する。	飲料水等の価格から、寡占や独占の状態における価格のしくみと公共料金のしくみを通して、市場の働きと限界について理解する。	思考・判断 市場が寡占や独占の状態の時、価格がどのように決まるのか、そして消費者にどのような影響が及ぶのかを考えることができる。〈ノート〉 知識・理解 独占価格と公共料金について、市場の働きとかわらせながら正しく説明することができる。〈ノート・発言〉
1	企業の働きと種類について調べ、資本主義経済のしくみについて理解する。	企業とは何かを考え、公企業や私企業、大企業や中小企業等、企業の種類と生産・流通の働きを調べ、資本主義のしくみをとらえる。	関心・意欲・態度 企業に関して学習したことや考えたことなどを、積極的に発表しようとする事ができる。〈発言〉 知識・理解 資本主義のしくみを、生産・流通・消費の中で、生産者（企業）と消費者（家計）との関係から理解することができる。〈ノート〉
1	株式会社のしくみと役割を理解し、企業の役割と社会的責任とはどのようなものかについて考える。	株式会社のしくみを具体的に理解するとともに、企業が及ぼす社会的影響や社会的責任について考える。	知識・理解 株式会社のしくみについて、株主と株主総会などの役割を具体的に理解することができる。〈シート〉 関心・意欲・態度 企業の「社会的貢献」に関して、あたえられた課題に対して自分の力で考えようとする事ができる。〈ノート・発言〉
1	銀行の仕事について調べ、金融の働きと役割について理解し、日本銀行の働きについて考える。	銀行の仕事の具体例を取り上げながら金融の働きについて理解するとともに、日本銀行の働きとその役割についてとらえる。	思考・判断 公定歩合を上下させることで、どのような効果が生まれるかを考えることができる。〈シート・発言〉 知識・理解 利子の働きを考えながら、銀行の業務や日本銀行の果たす役割を理解することができる。〈ノート〉
1	日本の産業構造の変化と、経済のソフト化・サービス化について理解し、これからの企業や産業のあり方について考える。	就業人口の変化や日常生活から、日本の産業構造の変化と経済のソフト化・サービス化の流れを理解し、これからの日本の企業や産業の方向性をとらえる。	知識・理解 日本の産業構造の変化を読み取り、その問題点を理解することができる。〈シート〉 技能・表現 技術革新や情報化などの経済のソフト化と、第二次産業の実態について理解し、発表することができる。〈ノート・発言〉
1 (本時)	日本の食料・環境問題を中心に、大量消費社会の問題点と解決策を考え、循環型社会の実現のための方法を探る。	日本の食料問題と環境問題を中心に、大量消費社会の問題点を指摘し、循環型社会の実現のためにその解決策を具体的に考える。	技能・表現 食料・資源・エネルギー問題について調べ、ノートにまとめることができる。〈ノート・発言〉 思考・判断 食料、資源エネルギー問題の原因とその影響や課題について考え、現在そして将来の自分ができることは何かを考察することができる。〈シート・発言〉

5 本時の指導

(1) 本時のねらい

日本の食料・資源・エネルギー問題の課題と解決策を調べる。

日本の環境問題への取り組みについて調べ、これからの課題と循環型社会の実現について考える。

(2) 仮説とのかかわり

ア 手立て 「書く活動」にかかわって

【とらえる書く】……学習課題を自分で書くことによる課題解決への意識付けを図る。

【わかり合う書く】……課題解決について自分の考えをまとめ、発表し合い、互いの考えを交流する場面づくり、自己の考えを深めていく。

【見つめ直す書く】……学習事項を再構成することによって、学習内容の定着をはかり、ふりかえりによって、着眼点を再確認したり、本時の授業の様子を自己評価したりする。

イ 手立て 「支援や評価」にかかわって

生徒が興味関心をもつ資料を活用し、いろいろな生徒の考えを取り上げ、机間指導で個々の生徒への支援を行いながら発言を促していく。

(3) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意事項 は支援	具体の評価規準 方法
<p>導入 10分</p>	<p>1 学習内容への導入 ・統計資料から、我が国の現状をとらえ、その問題点に気付く。</p> <p>2 学習課題の設定 ・問題点に気付き、その問題点や解決策を追究する学習課題を設定する。 ・課題を把握し、ノートに書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>大量消費社会の問題点と解決策を考えよう。</p> </div> <p>【とらえる書く】 目的意識</p>	<p>・「日本のエネルギー消費量」「日本の食料輸入量」「ゴミの排出量」をOHPで提示する。</p> <p>・日本の食料問題と資源・エネルギー問題の問題点を明らかにしながら、生徒の問題意識を引き出す。</p>	
<p>展開 30分</p>	<p>3 学習課題の予想と学習の視点の確認 ・食料問題と資源・エネルギー問題に観点をしほり、学習課題に対する予想を立てる。 ・「何が」「どんな問題が」「必要なことは」</p> <p>4 学習課題の検証 (1) 日本の食料問題と資源・エネルギー問題の実際の問題点と解決策を調べる。 【わかり合う書く】 自己解決力 <食料問題> ・食料自給率の低下について ・農林水産業の果たす役割について <資源・エネルギー問題> ・大量の廃棄物による公害問題について ・エネルギー依存度について ・環境アセスメントについて</p> <p>(2) 循環型社会とその課題について考える。 【わかり合う書く】 有用感 ・ペットボトルのリサイクルは本当に必要なのかを、資料をもとに考え、発表する。 ・話し合いの後、循環型社会について説明しまとめる。</p> <p>(3) 「循環型社会をつくるための5か条」を考える。 ・環境を守っていくために、今後私たちが何をしていかなければならないかをまとめ、発表する。</p>	<p>・学習課題の予想をノートに書かせる。 ・学習の視点を確認する。</p> <p>・教科書や資料から問題点と解決策をノートにまとめ、発表させる。 ・教科書で述べられている内容だけでなく、既習の学習事項と結びつけ考えさせる。 ・生徒の発表を板書に整理する。調べる際は、少なくともどちらか一つの問題はまとめさせる。まとめられない生徒には、教科書や資料集の該当ページを指示する。</p> <p>・資料から、ペットボトルのリサイクルの課題について、自分の考えをまとめ発表させる。再資源化の課題に着目しながら、循環型社会について考えさせる。 自分の意見をまとめられない生徒へ個別指導を行う。</p> <p>・学習した事項をもとに、これからの生活に必要なことを具体的に考え発表させる。</p>	<p>(1) <ノート・発言> A：食料と資源・エネルギー問題の問題点と解決策についてノートにまとめ、発言ができる。 B：食料と資源・エネルギー問題のどちらか、そして問題点だけをノートにまとめることができる。 C：教科書から、食料が資源・エネルギー問題の問題点について抜き書きさせる。</p> <p>(2) <シート・発言> A：循環型社会の課題について、自分の考えをまとめ、リサイクルの問題についての解決策を考えている。 B：循環型社会の課題について、自分の考えをもちまとめている。 C：何が課題なのかを理解させ、自分の考えをもたせる。</p>
<p>終末 10分</p>	<p>5 まとめとふりかえり ・本時の課題のまとめとふりかえりを書き、発表する。 【見つめ直す書く】 再構成、達成感</p> <p>6 次時予告 ・今後の経済単元についての内容を述べる。</p>	<p>・本時で学んだことと自分達の生活でこれから生かしていくことを書く。</p> <p>・教師が説明する。</p>	

(4) 板書計画

10 資源をむだなく

課題 **大量消費社会の問題点と解決策を考えよう。**
食料、資源・エネルギー問題について

問題点は？

食料問題

- ・食料自給率の低下
- ・輸入食料の増加
- ・食料が捨てられている

資源・エネルギー問題

- ・エネルギー依存率が高い
- ・公害の問題
- ・温暖化、ゴミ問題

解決策は？

- ・農業の役割を理解
- ・安全な食料の安定供給
- ・第一次産業の発展
- ・むだをしない
- ・むだな使い方をしない
- ・環境に配慮した工場
- ・リサイクル

1993年 環境基本法

1997年 環境影響評価法（環境アセスメント）

ペットボトルのリサイクル
に賛成・反対？

賛成

生徒の意見

反対

生徒の意見

「循環型社会」の実現
そのためにできること
・3R ・ゴミの減量
・節約した暮らし

まとめ

大量消費社会には、食料や資源・エネルギーをめぐるとくさんの問題がある。その問題を解決するために、「循環型社会」を築くことが必要であり、「電気をこまめに消す」等、私たちができることから、始めていかなければならない。

予想

メモ